

想像して いなかった 碓氷峠を「走れる」と



安中市で初めて開催された「MONTRE2024」のJN-5クラスに参戦した本市出身のラリードライバー、嶋村徳之選手が岩井市長を訪れ、初優勝の報告とともに今後の抱負を話してくれました。



嶋村 徳之(しまむら のりゆき)

1990(平成2)年生まれ、安中市在住。幼いころから乗り物が好きで、偶然テレビでラリー世界選手権を見て、その迫力に魅了される。

社会人になってから趣味でラリーを始め、現在も会社員として働きながら練習を積み、全国各地で参戦を続けている。

全日本選手権への参戦は今回が7戦目。

ー「碓氷峠」ラリーの印象は

長野に行く際、よく通っていて、中学の時には自転車で走ったこともあります。そんな場所を対向車を気にせず全開で走れるのは新鮮で、感慨深かったです。まさか安中市でラリーが開かれ、その中で碓氷峠を走ることを想像してなかったので。ラリーをやると聞いて「出るしかない」と思いました。

地元開催で、どうしても勝ちたかったのでほっとしました。碓氷峠はSSの3・4本目だったので「絶対にその前でリタイアしちゃいけない、碓氷峠までたどり着かないと」と思っていました。

ーラリーの魅力とは

一番は、サーキットと違って封鎖された一般道を、街中に見るよ



うな普通の車が非日常的な走りをする、刺激的なところかと思います。自分も走っていて、熊ノ平など遠い所まで多くの観客がいるのが見えて、ありがたかったです。

ー怖くありませんか

やはり恐怖心はあります。がんばりすぎれば事故になる。でもギリギリを攻めないとタイムが遅くなる。今年から参戦している全日本選手権はとてもレベルが高く、少しでもアクセルを緩めれば一気に差が開いてしまうので、かなり攻めないと勝てないと思いました。

ー最後に、今後の抱負を

また安中市でラリーが開催されるのなら、ぜひ出たいです。今度もっと上位のクラスで走って、どれくらいの成績を残せるか挑戦してみたいですね。

JN-5クラスとは？

エンジン排気量1,500cc以下の前輪駆動車が対象のクラスです。本大会にはトヨタ・ヤリス、マツダ・デミオなどが参戦しました。